事業完了報告書

提出日：　2023　　年　3　　月　31　　日

１．事業概要

（1）実行団体名：特定非営利活動法人あそびとまなび研究所（略称：あそけん）

（2）事業名　：　もじうみ里海探検隊　　障害児等の体験格差解消事業

（3）事業実施期間：2020 年 4 月～2023 年 3 月

（１）（4）資金分配団体名：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（略称：Ｂ＆Ｇ財団）

2. 規程類の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
☐　完了　／　☐　整備中
→上記で「整備中」を選択した場合、整備できていない理由を記載してください。また、事業開始時と比較して、整備状況が改善された点を記載してください。
（2）　整備が完了した規程類を自団体の web サイト上で広く一般公開していますか。
☒　全て公開した　／　☐　一部未公開　／　☐　未公開
→上記で「一部未公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。 団体のホームページをリニューアル整備し（本事業の助成金と「IT 補助金」を使用し、リタワークス社に制作委託）。2023 年 3 月 31 日に公開を完了した。
（3）　変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☑　変更があり報告済　／　☐　変更があったが未報告　／　☐　変更はなかった
→上記で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。

3. ガバナンス・コンプライアンス体制の整備・運用実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、項目ごとの設問に回答してください。

（1）　社員総会または評議員会、理事会は、規程類の定めるとおりに開催されていますか。
☑　はい　／　☐　いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。

（2） 内部通報制度は整備されていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「はい」を選択した場合、設置方法を以下から選んでください。（複数選択可） ☑ 内部に窓口を設置 ／ ☑ 外部に窓口を設置 ／ ☐ JANPIA の窓口を利用
（3） 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（4） 関連する規程類や資金提供契約の定めるとおりに情報公開を行っていますか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（5） コンプライアンス責任者を設置していましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→上記で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。
（6） ガバナンス・コンプライアンス体制の整備や強化施策を検討・実施しましたか。
☑ はい ／ ☐ いいえ
→【任意】上記で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。
（7） 報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。（実施予定の場合を含む）
☑ 外部監査 ／ ☑ 内部監査 ／ ☐ 実施予定もない ※（複数選択可）
→上記で「外部監査」または「内部監査」を選択した場合、その実施者を記載してください。 高村行政書士事務所
（8） 本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。
☐ はい ／ ☑ いいえ

4. 広報実績

いずれかにチェック☑をつけていただき、設問に回答してください。

（1）シンボルマークの活用状況
☑ 自団体のウェブサイトで表示している ／ ☑ 広報制作物に表示している ☑ 報告書に表示している ／ ☑ イベント実施時に表示している ☐ その他 →「その他」を選択した場合は記載してください （自由記述）：

最終年度の広報実績について記載してください。

広報種類	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等）		
広報制作物等	有り	次団体の活動広報紙面に活動紹介と共に掲載 北九州市子ども家庭局青少年課作成　夏休み冬休みの活動体験広報誌　掲載市内全小学生配布
報告書等		活動報告書に掲載

5. その他（本助成を通じて組織として強化された事項や新たに認識した課題、今後の対応/あればよいと思う支援や改善を求めたい事項など、自由にご記載ください。）

特定非営利活動法人あそびとまなび研究所（以下あそけん）は地域の全ての子どもたちのあそびと学びを補償するため、活動機会、活動空間、活動仲間を産み出す取り組みを行っている。団体の本拠地である北九州学研都市（2001 年開学）は、市内最大規模のひびきの小学校（在籍児童数約 1500 人。おそらく日本国内でも最大級）を抱え、北九州市内で最も子どもの流入の多い地域となっている。コロナ禍にあって、子どもたちの生活環境は激変し、もともと減少していた自然体験活動機会は激減し、もとより自然の豊かな地域であり、北九州市は海辺、河川などの水辺にも恵まれているにもかかわらず、子どもたちが水辺や自然に触れて活動したり、あそんだり、学んだりする機会は皆無に等しくなっている。

本事業は、あらゆるハンディキャップのある子どもたちへの活動機会の提供と学びと育ちの補償を目的としている。ひとり親などの生活環境における困難、発達障害などの困難、外国にルーツを持つなどの文化的困難、経済的貧困、ネグレクトやヤングケアラーといった心理的貧困など、いわゆる「普通に」学校に通うことが困難であったり、そもそも伝えられる情報自体に格差があり、学習や体験活動機会の少ない子どもたちとその親、また、その子ども達に日常的に関わる大人や関係者に、活動の必要性を伝え確認し、共にその機会を新たに作り出していくことを目標にしている。

広い海岸線を持つ北九州市には、多様な水辺や里山が連なり、豊かな自然やさまざまな季節に子どもたちの自然体験機会を提供し、子どもたちの活動を積み重ねることで、参加する子どもたちとその親や関係者、若手スタッフとともに、水辺に対する愛着や理解を深め、ひいては、地域への愛着、自然への愛着、を育て、参加者によって活動そのものの持続可能性を高めていくことを目指している。豊かなフィールド、多様な指導者、関係者、参加者、みなで活動を育てていき、小さな規模でもたくさんの活動機会を生み出し、より多彩な参加者への活動機会提供を可能とし、工夫して広報することで、市民全体の興味関心を涵養し、危機意識を共有し、最も必要とする子どもたちに活動機会を届け

ていくことが可能となるはずである。
コロナ禍にあって、「普通」自体が激変し混乱しており、学校に行けない子どもたちは激増、若者が、高校や大学を中退したり、社会との接点を失うケースも増えている。子どもたちは「今ここ」にいて、子どもたちの育ちや学びは待ったなしであって、日々の成長を「ここ」にずっとある自然のフィールドが受け止めてくれるはず。
自然の中の活動は、非常に複雑な調整や多くの人々の参画があって成り立っており、かなり専門的な知識と技術を要する。学校や公的なサービスでは、担い手すら不在で、コロナ禍で日常業務を全うすることで精一杯の現場の指導員や教員には、これ以上のことは期待できない。
ハンディキャップのある子どもたちのみならず、全ての子どもたちと若者たちにとって、自然の中での仲間との遊びや、体験活動機会は奪われていることから、今後も活動を継続し、機会の均等と拡大、を行っていく必要がある。
本事業は、３年間コロナとともにあった。多くの関係者の支援と、この事業そのものによって、あそけん自体の活動基盤は強化され、本活動はコロナ禍にあって、成長拡大を続けることができた。この３年間の現場での子ども達との活動の積み上げこそが、今後の活動継続のための予備実験であり、具体的な手法の検討の可能性の拡大や人や物資の資源の確保や、活動ノウハウの蓄積をもたらしている。

活動に関わることができた私たちは、子どもたちとともに、非常に多くの学びを得ることができた。子ども達や若者達の失われた３年間を取り戻すべく、活動の継続と拡大を目指していく。
（事後評価報告書より抜き書き）

【添付資料】

活動の様子がわかる写真　５枚程度

JANPIA の事業報告書や WEB サイト、SNS 等で公開可能な写真を５枚程度（1 枚 2MB 以下）ご提出ください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください。）
それぞれどんな場面の写真なのか、1 枚あたり 50 字から 200 字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

※ご提出をもって JANPIA での使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えのない写真（使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等）を選んでいただきますようお願いいたします。

サップの安全講習会実施風景

取扱方説明会

風が強かったので、水上には出られませんでした

宮崎さんにライフジャケット安全講習会を実施していただいた

大好評でした（来年度もリクエストあり）

実は長年もじで活動していても、海カヌーは初めて。
コロナ禍で休止していた活動の記念すべき再会となりました。
サップもはじめて、海へ出しました。